

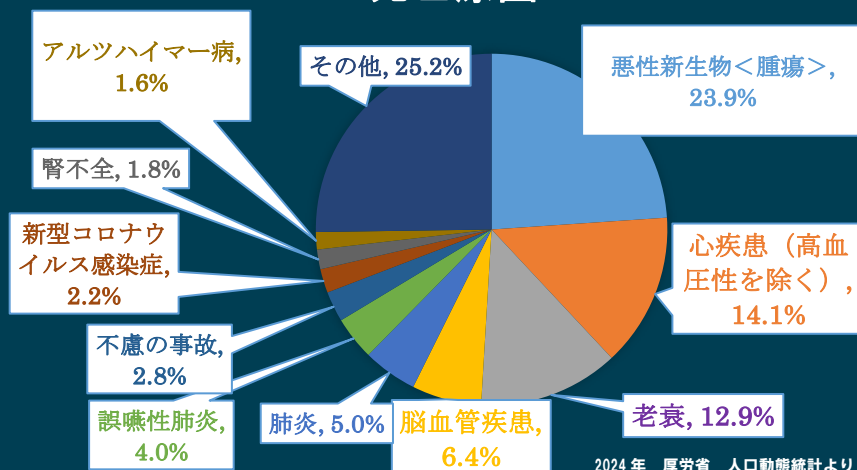
がん治療とお口のケア

青年期・壮年期シリーズ

vol.9

日本人の死亡原因の第1位は悪性新生物（腫瘍）で、日本人の2人に1人ががんになる時代とも言われているほど身近な病気です。近年では治療方法もめざましく進歩し、がんは治る病気、あるいは長く共存できる病気になりました。しかし、同時に、がんの治療が強力に、かつ徹底的に行われるため、治療によっておこる副作用や合併症の問題も深刻になってきています。

死亡原因



がん治療によるお口の中の副作用

抗がん剤治療によって起こりうる副作用

●治療中に起こり、終了後は徐々に改善する副作用

- ・口内炎（粘膜炎）
口粘膜が荒れて痛む
- ・歯の感染症
免疫が低下し、口の細菌が感染を引き起こす

●治療中に起こり、終了後はしばらく継続する場合もある副作用

- ・味覚の異常
味がおかしく感じるようになる
- ・口腔乾燥症
唾液が出なくなり、口が乾燥する

顔や口の周りのがん（とうけいぶ頭頸部がん）に対して放射線治療を行う場合に起こりうる副作用

●治療中に起こり、終了後は徐々に改善する副作用

- ・口内炎（粘膜炎）

●治療中に起こり、終了後はしばらく継続する場合もある副作用

- ・味覚の異常
- ・口腔乾燥症

●治療後に起こる可能性のある副作用

- ・放射線性のむし歯
- ・顎骨や粘膜の壊死

◆がんの種類や抗がん剤の内容によって、その頻度や重症度の差はありますが、多くの抗がん剤治療で口の中に口内炎（粘膜炎）が発症します。

◆抗がん剤は種類により、『こつすいよくせい骨髄抑制』と呼ばれる、細菌に対する体の免疫力が低下する副作用がやすいものがあり、感染症に非常にかかりやすくなります。むし歯や歯周炎などの歯の治療がされていない状態で抗がん剤の治療が始まってしまうと、今まで症状のなかった歯が急に悪化し、痛みや腫れが起こることがあります。

◆放射線が口の周辺にあたる治療を行う場合は、ほぼ全員に口の中に何らかの副作用が現れます。

◆唾液を作る「唾液腺」と呼ばれる組織が放射線によって破壊されてしまうと、唾液の量は減り、ネバネバになります。この影響は年単位で長く続き、完全には回復しません。唾液が少ないと、口の細菌が増えやすくなるため、感染を起こしやすくなり、非常にむし歯ができやすくなります。そのため放射線の治療が終わったあと、急にむし歯になってしまうことがあります。（放射線性う蝕）

◆最も重症な副作用が、放射線による顎骨の壊死（顎の骨が腐る）です。放射線が当たった顎の骨は、ちょっとしたことがきっかけで感染を起こし、壊死を起こすことがあります。最も多いきっかけは抜歯後感染です。

がん治療の前には歯科受診を！

がんの手術(がんに限らず、全身麻酔で行う手術)を安全に乗り越え、手術後の回復を早めるために歯科受診をし、口腔内を万全に整えておきましょう。

なぜ
歯科受診が
必要？



- 理由 1 口腔内の細菌を減らすことによって、お口の感染症や気管内挿管時に肺に送り込まれた細菌が後に肺炎を起こすのを防ぐため。
- 理由 2 免疫力の低下により治療されていないむし歯や歯周病が悪化・進行するのを防ぐため。
- 理由 3 外科手術後に発症しやすい細菌感染やそれによる発熱を予防し、在院日数が長引くのを防ぐため。

歯科医院ではこんなことをします！



がん治療前の歯科医師、歯科衛生士によるお口のケア

★ お口の検査

大きなむし歯や歯周炎など、がん治療中にトラブルになりそうな歯がないかをチェックし、がんの主治医の先生と相談しながら、最低限がん治療が落ち着くまで問題なく過ごせるように、応急的な治療を可能な範囲で行います。

★ お口の清掃

口の中の細菌感染を防ぎ、治療時のトラブルを抑えたり軽くしたりするために一番大切なのは、『トラブルを引き起こす原因になる細菌の数を減らすこと』です。細菌の数を減らすために、歯石やプラークを可能な限り除去します。

★ セルフケアの指導

口の中を細菌の少ない良い状態に維持するには、**患者さん自身によるお口の管理(セルフケア)**にかかっています。そのため、歯科では『正しい歯みがきの仕方』を助言・指導します。

がん治療中のセルフケアのポイント

★ 1 感染を予防する

感染予防には、歯ブラシによるお口の清掃が基本となります。痛い部位に触れないよう、やさしくみがきます。また、免疫力が低下するとカンジダ(カビの一種)やヘルペスといった普段なら起こりにくい特殊な感染症にかかることもあります。カンジダの感染は「じっとしていてもヒリヒリ、ピリピリする痛み」が、ヘルペス感染は「針で刺すような激しい痛み」が特徴です。どちらも専用のお薬があり、治療が必要です。主治医の先生に相談しましょう。

★ 2 保湿

口が乾燥すると、口内炎の痛みは強くなり、感染も起きやすくなります。軽度の口内炎であれば、口が潤っただけで症状が和らぎます。うがいを頻回に行い、粘膜が乾かないようにします。アルコールを含むうがい薬は、粘膜の水分を奪うので使用を控えます。保湿効果の高いうがい薬や、ジェル・軟膏・スプレーなど自分の症状にあったものを選んで使いましょう。

★ 3 痛みの緩和

口内炎の痛みが強い場合、痛み止めの内服薬の処方など、主治医の先生に相談しましょう。また、口の中全体に口内炎ができて痛みで食事がしにくい場合、局所麻酔薬などが入ったうがい薬が処方されることもあります。食前にうがいをすることで、痛みが和らぎ食事が摂りやすくなります。